

守口市学校教育情報化推進計画



守口市教育委員会

序論

計画策定の趣旨

守口市では、「郷土を誇りに思い、夢と志を持って、国際社会で主体的に行動する人の育成」を教育理念として、社会が急激に変化していく時代において、「生きる力」と「生涯学び続ける人」の育成をめざしています。

これまでのICTを活用した環境整備など

平成21年度に「電子黒板」等を導入し、ICTを活用した授業改善を進めてきました。平成25年度には、教職員がより子どもたちと向き合う時間を生み出すため、校務用PCを導入するなど、校務の効率化を図ってきました。令和2年度には、GIGAスクール構想として「1人1台端末」を整備。現在は、これまでの積み重ねを土台に、オンライン授業などのデジタル学習基盤を最大限に活用した教育に取り組んでいます。



加速する社会の変化と教育DXの必要性

近年、Society 5.0の到来や新型コロナウイルス感染症などの影響によって、社会が加速度的に変化し、生成AIをはじめとするデジタル技術が飛躍的に発展しています。この技術の進化は、人生100年時代や構造的な人材不足といった社会構造の変化と相まって、児童生徒が自らの人生を主体的に舵取りし、持続可能な社会の創り手となることができるよう、教育のデジタルトランスフォーメーション（DX）を不可欠なものとしています。

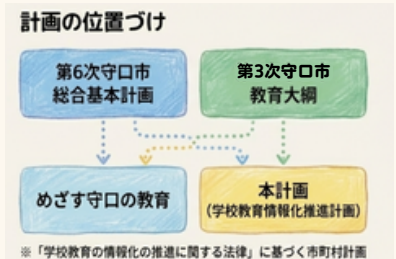
守口市の教育DXの深化を加速させる「次期推進計画」の策定

社会の変化に適応するため、ICTや生成AI等の先端技術を最大限活用し、子ども一人ひとりに応じた「個別最適な学び」と、対話を通じた「協働的な学び」を一体的に充実させ、情報活用能力を育みます。同時に、クラウド活用による校務DXで教職員の働き方改革を加速させ、「教師にしかできない仕事」に集中できる環境を整えます。これらの取組みを体系的に推進するため、令和8年度からの次期「守口市学校教育情報化推進計画」（以下、「計画」という）を策定し、教育DXのさらなる深化をめざします。

計画の位置づけ

本計画は、「学校教育の情報化の推進に関する法律」（令和元年法律第47号）第9条第2項に基づく「市町村学校教育情報化推進計画」として策定するものです。

また、本計画は「第6次守口市総合基本計画」や「第3次守口市教育大綱」を踏まえて策定する「めざす守口の教育」と併せて、ICT活用の推進を図るための行動計画となるものです。



計画の期間

本計画の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。ただし、ICT分野における技術革新のスピードが速い特性を踏まえ、国の計画（学校教育情報化推進計画）が5年間の施策の方向性を示すものであり、策定から3年後を目途に見直しを行うこととされていることも考慮し、本計画にも必要に応じて随時更新を加えるとともに、策定から3年後を目途に見直しを行い、次期計画の策定を検討します。



守口市の学校教育の情報化の現状と課題

1 自立した学習者の育成

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、全国学力・学習状況調査の結果等を活用して児童生徒等の把握・分析を行いつつ、「めざす守口の教育」に基づいた授業改善及び自学自習力の育成に向けた取組みを進めています。

ICTやクラウドを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実することやカリキュラム・マネジメントの取組みの一層の推進、日常的なICT活用に伴う情報モラルを含む情報活用能力や健康な生活を送る力の育成が課題です。

【関連】 資料1：大阪府情報活用ステップシート

様々な理由によって登校できない児童生徒に対するオンラインによる授業配信や学習課題の提供、障がいのある児童生徒に対する認知機能強化トレーニング用アプリ等を活用した自立活動、日本語指導を要する児童生徒に対する翻訳アプリを活用した学習などの取組みを進めています。

ICTやクラウドを最大限活用し、配慮を必要とする児童生徒により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことが課題です。

2 教職員のICT指導力

教職員のICT活用指導力の向上に向け、機器の操作マニュアルの作成、専門家を講師とした教職員研修の開催や校内研修への指導主事の派遣、公開授業等による先進的な実践事例の共有や学校教育情報化コーディネータの配置などの取組みを進めています。

こうした取組みにより、児童生徒や教職員がICTを「文房具」の一つとして日常的に活用する場面は定着しつつあります。今後は単に機器を使用する段階から、より「主体的・対話的で深い学び」の実現に直結する効果的な活用へと質を高めていく必要があります。加えて、学校間や教職員間において、活用の頻度や習熟度にばらつきが生じていることも現状の課題となっています。

3 安心・安全なデジタル環境

普通教室等に整備している大型提示装置と実物投影機、児童生徒及び教員に貸与しているタブレット端末等のICT機器の活用を基本として、日々の授業が進められています。通信環境については、ネットワークアセスメントを実施し、ボトルネックへの早期対応として学校の改善を図るとともに、*ローカルブレイクアウト等の導入により十分な通信回線を確保しています。

今後は、校内LAN環境において新たなボトルネックが生じないよう、継続的な環境維持が課題となります。また、電子黒板等は、普通教室や特別教室に不可欠な「学校施設の一部」として位置付けた計画的な整備が必要です。あわせて、校務用PCについても、教職員が円滑に業務を遂行するための前提となる端末として、適切な環境整備が求められています。

【関連】 資料2：守口市のICT環境整備

*ローカルブレイクアウト・・・各校から直接インターネットに接続し、通信の混雑を回避する仕組み。

4 次世代の校務DX

教職員1人1台の校務用PCを整備し、校務支援システムによる学籍や成績管理、集約型サーバによる教材などの共有、クラウドによる学校間の連絡や会議開催など、デジタルの活用による校務の効率化を進めています。一方で、校務と学習のデータをよりシームレスに結びつけることで、教育データの利活用をさらに活性化させる余地が広がっています。

今後は、これまでの各種調査や連絡等のデジタル化の推進に加え、校務DXを強力に推し進め、抜本的な業務改善を実現する必要があります。そのためには、ICT担当教職員への負担集中を防ぐとともに、市教育委員会事務局の内部も含めた確実な推進体制を構築することが必要です。

ICTの活用により実現をめざす学校像と指標

※ ◆ iPad活用についてのアンケート調査（守口市）、❖ 学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文部科学省）、
★ 全国学力・学習状況調査（文部科学省）の令和6年度実施の回答状況

1 自立した学習者の育成

児童生徒がICTや生成AIを適切に活用し、自らの学びを調整できる「自律的な学習者」として、主体的に課題解決に挑んでいます。特別な支援を必要とする子も、ICTを通じて多様な学び方が保障され、個々の資質・能力を最大限に発揮しています。



指標名	回答者	現状 (R6)	目標
◆iPadを使った授業では、友達と考えを共有したり、比べたりすることがしやすかった。	児童生徒	88.0%	↑
◆iPadを使った授業では、友達と協力しながら学習を進めることがしやすかったと思いますか。	児童生徒	87.8%	↑
★あなたは自分がインターネットを使って情報を収集することができると思いますか。	児童生徒	88.2%	↑
★あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができると思いますか。	児童生徒	69.2%	↑
★あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか。	児童生徒	80.2%	↑
◆あなたの授業では、やむを得ず登校できない（教室で授業を受けられない）児童生徒に対し、授業配信を実施しましたか。	教職員	38.8%	—
★生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（5）生徒の心身の状況の把握。	学校長	20.2%	—

2 教職員のICT指導力

全教職員がICT活用指導力を備え、教育DXの主体として授業改善や校務効率化に取り組んでいます。



指標名	回答者	現状 (R6)	目標
❖教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	教職員	90.2%	↑
★PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。	児童生徒	59.6%	↑
★1, 2年生の時に受けた授業は、自分にあった考え方教材、学習時間などになっていましたか。	児童生徒	82.5%	↑
◆あなたの授業では、Teams等のクラウド上で児童生徒がデータを共同編集や途中参照する機会がありますか。	教職員	48.6%	↑
❖児童生徒がコンピュータやインターネットを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	教職員	88.8%	↑
❖児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気づき、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	教職員	87.1%	↑

ICTの活用により実現をめざす学校像と指標

※ ◆ iPad活用についてのアンケート調査（守口市）、❖ 学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文部科学省）、
★ 全国学力・学習状況調査（文部科学省）の令和6年度実施の回答状況

3 安心・安全なデジタル環境

高速ネットワークや端末が適切に運用される安全・安心な環境のもと、学校や家庭で日常的にデジタルコンテンツが活用されています。



指標名	回答者	現状 (R6)	目標
児童生徒・授業者用タブレット端末の整備率	施設整備	100%	→
普通教室の大型提示装置・実物投影機の整備率（特別教室用含む）	施設整備	100%	→
インターネット及び無線LANの整備率	施設整備	100%	→
総合型校務支援システムの整備率	施設整備	100%	→
◆あなたは、Teams等クラウドソフトで、児童生徒が単元。授業に見通しが持てるように授業の流れやゴール等、必要な資料やデータを共有していますか。	教職員	53.9%	↑

4 次世代の校務DX

各組織において、リーダーシップのもと、外部連携やクラウド活用による次世代の校務DXが進み、教職員が本来の業務に注力できています。また、*EBPMや教育データの標準化により、個別最適な支援が実現しています。



*EBPM・・・エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案

指標名	回答者	現状 (R6)	目標
★ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか。	学校長	100% (*強32.0%)	↑
◆ドリルパークやタブドリLive!の学習履歴を授業立案や子どもへの支援等に活用していますか。	教職員	30.8%	↑
★生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。	学校長	89.9% (*強17.8%)	↑

*強・・・設定された選択肢のうち、最大の肯定値を示す区分のみの数値です。

基本的な方針を実現するための施策

1

ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成



- 1 ICTの効果的な利活用の推進
- 2 情報活用能力の育成
- 3 健康面への配慮
- 4 いじめ・自殺・不登校等の対応の充実
- 5 障がいのある児童生徒の教育環境の整備
- 6 多様な学びの形に寄り添う教育の保障
- 7 日本語指導が必要な児童生徒の教育の充実

2

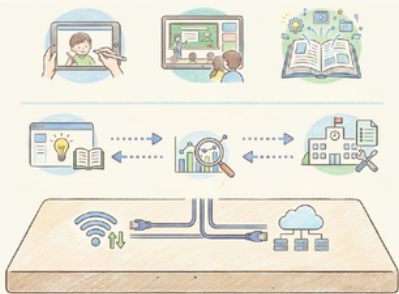
教職員のICTの活用指導力の向上と人材の確保



- 1 教職員のICT活用指導力の向上
- 2 教職員・児童生徒へのサポート体制の充実

3

ICTを活用するための環境の整備



- 1 学校におけるICT活用のための環境整備
- 2 教育データの利活用、教育DXの推進
- 3 デジタル教育コンテンツの活用
- 4 個人情報の保護・情報セキュリティ対策等
- 5 著作権への理解

4

ICT推進体制の整備と校務の改善



- 1 学習の継続的な支援等のための体制の整備
- 2 情報化による校務効率化

1 ICTの効果的な利活用の推進

1 ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

広域のネットワークを活用した先行事例の横展開



国が推進するリーディングDXスクール事業、府事業のスマートスクール実現モデル校などの先行事例を積極的に収集・分析し、市内の各学校へ横展開するためのモデルケースを創出します。

市内好事例の発信と共有



ICT活用の好事例を、学校公開や研修、「守口市カレッジBox」等で共有し、どの学校でも質の高いICT教育が受けられる環境を整えます。

PDCAサイクルによる授業改善

「めざす守口の教育」に基づき各学校が作成する「学力向上推進プラン」において、ICTやクラウドを活用した学習活動の質向上に関する取り組みを明記し、年2回のPDCAサイクルによる検証改善を図ります。



情報活用能力調査の実施



児童生徒の情報活用能力についての調査を行い、その結果を踏まえ、今後の施策の展開について検討する。

2 教職員のICTの活用指導力の向上と人材の確保

3 ICTを活用するための環境の整備

2 情報活用能力の育成

4 ICT推進体制の整備と校務の改善

体系的な情報活用能力の育成と探究的な学びとの一体的充実

大阪府の「情報活用能力ステップシート」、守口市の体系表や年間指導計画に基づき、児童生徒の情報活用能力を育成します。

小学校段階

体験的な活動を重視し、総合的な学習の時間と一体的に情報活用能力を育成します。情報技術の活用を中核とし、生成AIが認知や行動に与えるリスクへの対応を含む適切な取扱いと特性の理解の基礎を系統的に指導します。

中学校段階

技術科や総合的な学習の時間を通じて、情報技術の特性の理解をより専門的に深めます。特に、コンピュータの仕組みやデータ活用、生成AI等の特性の理解を充実させ、これらを探究的な学びを支え、駆動させる基盤として活用できるよう組織的に育成を強化します。



学校図書館の活用

図書館の「読書・学習・情報センター」としての機能を最大限に活用します。公共図書館との連携やICT活用を進めるとともに、「学校図書館教育全体計画」を継続的に検証・改善し、全校で計画的な利活用を推進します。



情報モラル・メディアリテラシー教育の深化



自他の権利を尊重し、犯罪被害などのトラブルを回避して責任ある行動ができる力を養います。また、ICT機器の利用時間や頻度を自ら整える「自己調整力」を育成します。教材「SNSノートおおさか」の活用に加え、専門家の知見や指導資料を取り入れ、教育内容をより深めていきます。

3 健康面への配慮

心身の健康面への配慮



ICT端末の日常的な活用機会が増えることから、児童生徒の視力をはじめとする心身の健康面への影響に十分配慮し、適切な利用を促すための指導と情報発信を行います。



科学的根拠に基づく情報収集と発信



健康面への配慮を科学的な根拠に基づき行っていくため、国の調査結果（近視の状況等）等の情報収集及び発信を行います。

4 いじめ・自殺・不登校等の対応の充実

早期発見と個に応じた支援

端末を通じた心の状態入力や検索ワードの見守りに加え、相談窓口の情報を端末で周知するなど、ICTを積極的に活用します。今後はICTによるスクリーニング手法の研究も進め、児童生徒の変化をいち早く把握し、専門家（SC・SSW）と連携した一人ひとりに寄り添う支援を充実させます。



ICTによる孤立防止と専門的支援

不登校が継続する際にはオンライン授業や学習アプリを活用し、場所を問わない学びの機会を保障します。また、いじめ発生時にはICTを相談や情報共有のツールとして活用し、専門家と連携した迅速な事態の解消と、一人ひとりの状況に合わせた伴走型の支援を充実させます。

5 障がいのある児童生徒の教育環境の整備

ICT活用による個別支援と授業改善



個別の指導計画において、一人ひとりの特性に応じたICT活用を具体化し、学びの困難解消と能力伸長を両立させます。あわせて、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善を進め、すべての児童生徒が分かりやすい学びの環境を整えます。

活用事例の共有と学習データの蓄積



アプリやVR等の活用事例を障がい種別に整理して集約し、全校で共有・更新します。また、個々の学習履歴をデータとして蓄積することで、児童生徒が自らの学びを振り返り、成長を実感しながら自己評価できるよう支援します。

1 ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

2 教職員のICTの活用指導力の向上と人材の確保

3 ICTを活用するための環境の整備

6 多様な学びの形に寄り添う教育の保障

オンラインによる学びの保障

病気療養中や学校外で学ぶ児童生徒一人ひとりに合わせ、ICTを活用した「個別の指導計画」に基づききめ細かく指導します。オンラインでの授業参加など、ハイブリッド形式の指導を積極的に取り入れ、教室以外の場所でも学びを止めない柔軟な指導を推進します。



4 ICT推進体制の整備と校務の改善

好事例の共有と個別最適化

アプリやVR等の活用事例に加え、ICTを通じた教員と児童生徒のきめ細かなやり取りを好事例として集約・発信します。また、学習履歴を蓄積し、子どもたちが自らの成長をデータで振り返ることで、主体的に学びを調整できる力を育みます。



学びの継続性の確保

災害や感染症による臨時休業時も学びを止めないよう、オンライン授業の研究や体験を重ね、ハイブリッド指導を確立します。いかなる状況でも、すべての児童生徒が学び続けられる体制を構築します。



1 ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

2 教職員のICTの活用指導力の向上と人材の確保

3 ICTを活用するための環境の整備

4 ICT推進体制の整備と校務の改善

7 日本語指導が必要な児童生徒の教育の充実

オンライン指導の充実と外部連携

日本語指導加配教員によるオンラインのグループ学習を、放課後等に実施し学習機会を確保します。府の施策の活用に加え、大学やNPO等の外部機関とオンラインで連携し、専門的なノウハウの蓄積・共有を図ることで、一人ひとりに最適な指導を推進します。



個別最適化された日本語指導

個別の指導計画に基づき、一人ひとりの日本語能力に応じたデジタル教材や翻訳アプリを活用し、教科指導を充実させます。在籍学級の進度にとらわれず、ICTを駆使して子どもの習熟度に寄り添った個別最適な学びを提供します。

多言語対応の推進



多言語翻訳ツール等を活用し、日本語指導が必要な児童生徒への教科指導や生活面での支援を充実させます。あわせて、保護者との連絡や進学相談等でのICT活用を促進し、言語の壁を越えた学校と家庭の緊密な連携を推進します。



1 ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

2 教職員のICTの活用指導力の向上と人材の確保

3 ICTを活用するための環境の整備

4 ICT推進体制の整備と校務の改善

1 教職員のICT活用指導力の向上

ICT活用指導力向上のための研修体系構築



教育の質のさらなる向上に向け、全教職員が専門性に応じた指導力を習得できる研修体制を強化します。「活用指導力チェックリスト」で現状を把握し、オンラインやオンデマンド研修、動画マニュアルを拡充することで、個々のスキルに応じた「いつでも・どこでも学べる」機会を充実させます。

研修履歴を活用した受講奨励への対応



全国教員研修プラットフォーム(Plant)の履歴データを活用し、個々の課題に応じたオンライン研修を推奨します。効果的・効率的な学びを推進することで、教職員のICT活用指導力の向上と、研修に係る負担軽減を両立します。

実践事例の創出と横展開



「GIGA StuDX推進チーム」等の先進事例を広く周知し、具体的な活用イメージを共有することで、各校の実践を促します。活用が途上にある学校に対しては、個別の伴走支援を強化し、市全体で質の高いICT教育が展開されるようサポートします。

2 教職員・児童生徒へのサポート体制の充実

多様な専門人材の参画



民間企業や大学生、企業退職者等の専門人材の参画を促し、地域全体で学校を支える体制を構築します。ICT人材を確保しやすい仕組みを大学等と連携して整えるとともに、遠隔サポート等の活用事例を収集・展開し、現場の課題解決に向けた多角的な支援体制を実現します。

ICT支援体制の充実



教職員への専門的な助言や技術支援を強化するため、学校情報化コーディネーターの配置を充実させます。現場の困り感に寄り添う日常的なサポートを徹底し、教職員が安心してICT活用に専念できる体制を構築します。

学校DX戦略アドバイザーの活用

文部科学省から派遣される「学校DX戦略アドバイザー」等を活用し、各学校の実情に応じたICT活用に向けた課題解決を行います。



1 学校におけるICT活用のための環境整備

教室環境の高度化と高速・安定した通信インフラの刷新

大型モニターや無線APの計画的な更新に加え、ICT活用に適した新JIS規格の機の整備を促進します。また、ネットワークのボトルネック解消や校務・学習系の統合、クラウドツールの導入を推進し、校内外を問わずシームレスで快適に学べる高度な通信基盤を構築します。



個別最適な学びを支えるソフト・システム面の充実

クラウド活用とフィルタリングの最適化により、児童生徒が安全・自律的に学べる環境を整えます。MEXCBT等の活用で学習状況の的確な把握・評価を推進するとともに、補償金制度の適切な運用を通じて、多様なデジタル教材を授業で円滑に活用できる体制を構築します。



教育の機会均等を保障する家庭学習支援



経済的な理由等で通信環境が整っていない家庭に対し、Wi-Fiルーターの貸出しや通信費の支援を実施し、教育の機会均等を保障します。これにより、学校での学びを家庭へ繋げ、すべての児童生徒が平時から場所を問わず積極的にICTを活用できる学習環境を維持します。

2 教育データの利活用、教育DXの推進

データ連携基盤の整備と指導改善への活用

学習eポータルやCBTシステム（MEXCBT）、校務支援システム等を導入・更新する際は、国が示す「教育データ標準」に準拠し、システム間の円滑なデータ連携を可能にします。学習履歴（スタディログ）等のデータを連携・分析・可視化することで、個々の児童生徒の状況を多角的に把握し、きめ細やかな指導改善に繋がります。



教育DXの加速に向けた基本方針

国の「教育データ利活用ロードマップ」等を踏まえ、個人情報保護に十分留意した上で教育データの利活用を推進します。校務のデジタル化を帳簿の電子化に留めず、学習系システムと校務系システムが持つデータを有効に連携させ、新たな教育価値の創出をめざす教育DXを加速させます。

ユニバーサルIDと認証基盤の検討

国の動向を注視し、マイナンバーカードの活用を含め、転校・進学時等における教育データの円滑な引継ぎや、生涯にわたる学びのデータを活用できる認証基盤のあり方を調査・研究します。



3 デジタル教育コンテンツの活用

1 ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

2 教職員のICTの活用指導力の向上と人材の確保

3 ICTを活用するための環境の整備

4 ICT推進体制の整備と校務の改善

デジタル教育コンテンツの充実と活用促進



国及び府の情報サイトの周知等を行い、デジタル教育コンテンツの活用を促進します。学習指導要領のデジタル活用等を通じた、デジタル教科書と質の高い多様なデジタル教材（ドリルや動画、音声等）との連携など、紙とデジタルの適切な役割分担を踏まえた効果的な活用を推進します。

探究的な学びを支えるデジタル教材・コンテンツの活用

国の「STEAMライブラリー」等のデジタル教材プラットフォームを積極的に活用し、質の高い探究的な学びの実践事例を創出します。創出された優良事例は「守口市カレッジBox」等を通じて市内各校に共有・展開し、ICTの活用による効果的な探究的な学びの推進を図ります。



地域連携による教育コンテンツの充実

デジタル教育コンテンツの活用により、公民館、図書館、博物館等の地域の社会教育施設等との連携を促進するとともに、実践事例を発信しながら横展開を図ることにより、児童生徒の学習の充実を図ります。



民間事業者の推進力活用

EdTech事業者をはじめとした民間事業者の取組への支援などを通じ、民間企業の推進力を活用し、新たな教育価値の創出をめざします。



4 個人情報の保護・情報セキュリティ対策等

利用ネットワーク・場所にとらわれないセキュリティ対策



1人1台端末環境におけるクラウドの日常的な活用や家庭用端末の活用を含め、利用するネットワーク・場所にとらわれないセキュリティ対策（ゼロトラスト的な考え方）をめざします。その際、個人情報の保護等に十分に配慮しながら、データ活用のメリットを活かせるよう、安全・安心な利活用が図られるよう「守口市教育情報セキュリティポリシー」を策定し仕組みやルールを構築します。

「守口市教育情報セキュリティポリシー」の見直しと運用



守口市教育情報セキュリティポリシーの定期的な見直しを実施し、学校における情報セキュリティの確保に取り組み、教師及び児童生徒が安心して学校でICTを活用できる環境の整備を促進します。

1

ICTを活用した児童生徒
の資質・能力の育成

5 著作権への理解

情報活用能力の育成における著作権への 理解の促進

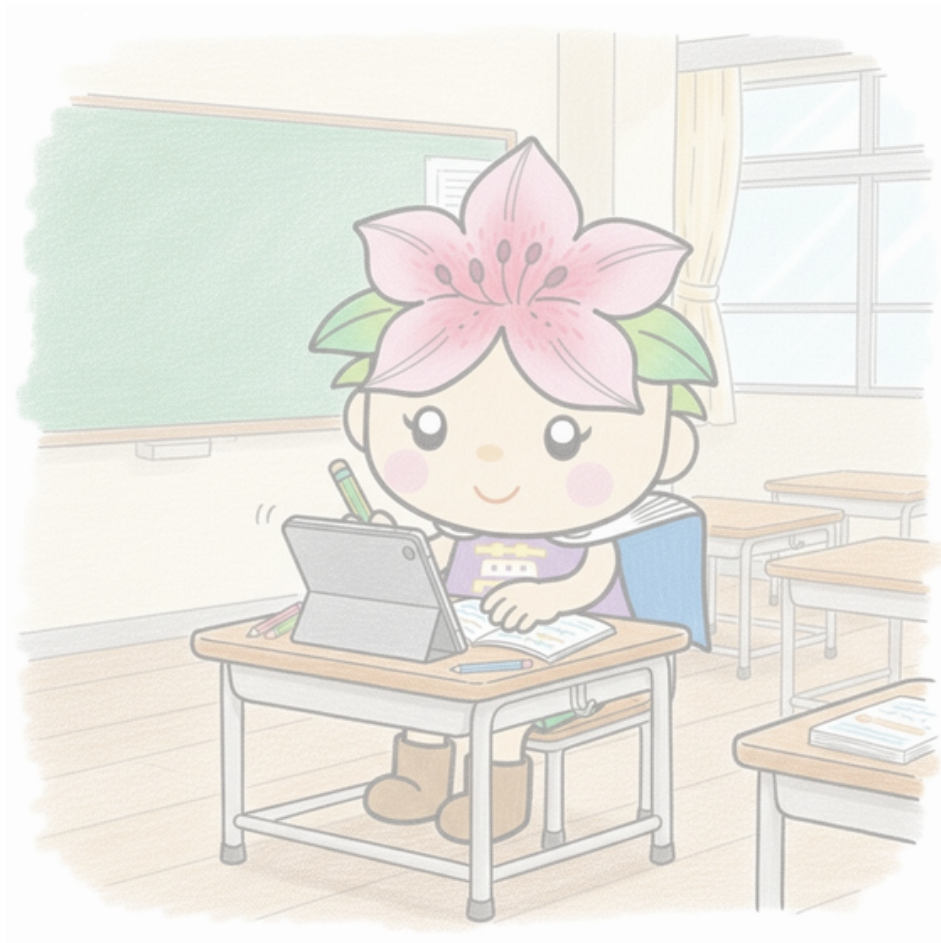
デジタル化・ネットワーク化の進展に伴い、児童生徒が著作権に関する知識や意識を持ち、理解を深められるよう、著作権教育用コンテンツを活用し、情報活用能力の育成と一体的に著作権への理解の指導を強化します。



3

ICTを活用するため
の環境の整備

4

ICT推進体制の整備
と校務の改善

1 学習の継続的な支援等のための体制の整備

1 ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

ICT推進組織体制の強化

ICT推進を担当する組織体制の整備、ICT支援員をはじめとする専門人材の配置を充実させ、民間事業者も含む組織的な支援体制を強化します。また、市長部局と密に連携し、デジタル化や教育施策の方向性の共有を図ります。



管理職のリーダーシップと校務分掌の適正化

教育長や校長がリーダーシップを発揮し、教育委員会や管理職が責任をもって教職員を支援する体制を築き、チームとしてGIGAスクール構想を推進します。情報担当者など特定の教職員に負担が偏ることのないよう、管理職の責任で適切な校務分掌を行い、組織的な対応と改善を常に図ります。



2 教職員のICTの活用指導力の向上と人材の確保

学校間の連携と情報共有

ICTを活用した学習活動等を推進するために必要となる環境整備や実践事例の共有を行うため、情報教育担当者等との会議を組織し、教育委員会と学校及び各学校間の連携を図ります。



3 ICTを活用するための環境の整備

2 情報化による校務効率化

4 ICT推進体制の整備と校務の改善

クラウド活用による校務の全面デジタル化

文部科学省の方針に基づき、汎用クラウドツールを徹底活用することで、書類作成、情報共有、採点・集計作業などの校務全般における「紙からデジタル」への転換を強力に推進します。場所や時間にとらわれない柔軟な働き方を実現するとともに、データの相互運用性を確保し、教職員の業務負担を大幅に軽減します。



事務手続き・コミュニケーションのオンライン化

デジタル庁が掲げる「デジタルに変えること（12のやめることリスト）」を指針とし、教育委員会および学校が実施する各種調査、アンケート、会議資料の共有を原則オンライン化・ペーパーレス化します。また、保護者連絡手段のデジタル化を推進し、家庭との円滑かつ迅速なコミュニケーションを実現します。併せて、就学事務システム等の最適化を図り、行政事務の効率化を加速させます。


















校務DXの定着と外部リソースの活用

「守口市カレッジBox」等を活用し、ICTを用いた校務効率化の優良な実践事例を全校で共有・展開することで、市全体の校務DXの底上げを図ります。また、働き方改革の観点から、教師が教育活動に注力できるよう、デジタル技術も活用しながら、教師以外でも担える業務のアウトソーシング（外部委託）を促進します。



大阪府情報活用能力ステップシート

分類	項目	STEP1 (めやす: 小学1・2年生)	STEP2 (めやす: 小学3・4年生)
1 学び スキル	A 課題の設定	身の回りの事象に関する課題を設定できる	地域の事象に関する課題を設定できる
	B 収集	情報を収集する身近な方法を知り、実施できる	情報を収集する複数の方法を知り、実施できる
	C 整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図、簡単な表やグラフを用いて情報をまとめることができる 共通と相違、事柄の順序など、情報と情報の関係を探えられる 正しくない情報があることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい情報かどうか確かめようとする 情報カードを使って、集めた情報の記録や整理ができる 表やグラフなどを用いて情報を整理できる 複数の情報から傾向、変化を捉え、共通点や相違点を見いだすことができる 全体と中心など、情報と情報の関係を探えられる
	D まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 複数の情報から、わかったことをまとめられる 自分の考えを写真や絵、手書き入力等による文字で、表現できる 紙芝居、絵本、絵カード、ペープサートなどを使って表現できる 	<ul style="list-style-type: none"> 同一内容について2、3点以上の情報を比較したり、関係付けたりして、新たな意味を見いだせる 自分の考えや意見を壁新聞やポスター、リーフレット、スライド等で相手を意識して表現できる
	E 振り返り・改善	情報活用を振り返り、感想をもつことができる	情報活用を振り返り、改善点を見いだせる
2 学校図書館 活用スキル	F 本やメディアに親しもうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの本にふれ、いろいろな本があることを知る 読み聞かせ等を通して、読書を楽しむ 読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ブックトーク等を通して、さまざまな本にふれ、その良さを知らうとする 必要な知識や情報を得ることに、読書を役立たせようとする
	G 図書館資料を利用する力	<ul style="list-style-type: none"> 知識(調べたこと)と体験をつなげられる 何かを知りたいときに、学校司書等、学校図書館に關係する人々に自ら尋ねるなど、関わりをもつことができる 学校図書館のきまり、本の借り方・返し方を理解して、学校図書館を利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 考えに対する理由や事例(調べたこと)をつなげられる 学校図書館にある本の配架や分類の仕方を理解して、学校図書館を利用できる
	H メディアを活用する力	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学の本、図鑑の使い方がわかる 抜き書きをしたり、絵や文などを用いたりして、調べたことをまとめる方法がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> 百科事典、国語辞典、漢字辞典、地図、地域資料などの使い方がわかる 本の目次や索引の使い方を理解し、さまざまな教科の学習に生かすことができる 調べたことや自分の考えをまとめるとき、著作物の引用や出典について明示することができる
	I 公共図書館等を活用する力	公共図書館の利用方法を知り、利用できる	各種施設(公共図書館・博物館・資料館)の特徴を知り、どこへ行けばどんな資料が得られるか理解することができる
	3 ICTの 基本的操作 スキル	J 入力	起動や終了、ログイン・ログアウト、写真撮影、文字のフリック入力又は手書き文字自動変換機能などの基本操作ができる
K アプリケーション等の使用・操作		標準仕様のWEBブラウザやカメラ機能など、基礎的なアプリケーションを操作できる	標準仕様の文章作成、表計算、プレゼンテーション系アプリケーション、ノーコードのプログラミングソフトを操作できる
L 検索		インターネット上の情報を閲覧することができる	キーワード検索ができる
M 保存		ファイルの呼び出しや保存ができる	クラウドを用いて、ファイルの検索や共有ができる
4 情報モラル・情報 セキュリティ	N 情報の取り扱いに関する理解	人の作った作品や情報を大切にすることや、その情報をむやみに他者に伝えてはいけないことを理解できる	<ul style="list-style-type: none"> 自他の情報を発信、やり取りする場合の責任を理解できる 他人が制作した情報を活用する際はURL等を含めた引用を明記する必要があることを知る
	O 情報セキュリティに関する理解	情報機器を使用する際の基本的なルールに基づき正しく使用できる	パスワードを人に教えないなど、情報を守るための基本的な方法を知る
	P 情報モラルなどに配慮しながら情報を活用する力	<ul style="list-style-type: none"> パスワードやIDを自分で適切に管理・使用できる ルールやマナーを守り、クラウドやインターネットの情報を閲覧できる インターネット上に正しくないものがあると理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の個人情報や教えたり、不審なサイトにアクセスしたり、不審なアプリケーションをダウンロードしたりすると危険があることをわかったうえで、インターネットを利用できる インターネット上にある正しくないものを見極めようとする SNSの便利さと危険について知る
	Q 情報を適切に取扱いながら情報社会に参画しようとする態度	<ul style="list-style-type: none"> 自他の大切さを理解する 情報や情報技術を使おうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の情報の大切さを踏まえ、適切に行動しようとする 情報や情報技術、生活に生かそうとする
5 プログラ ミング	R 問題解決の手順を考える力	手順を順序立てて説明できる	手順を図解し、説明できる
	S プログラミングの思考	コンピュータには明確な手順を命令する必要があることに気づく	意図した簡単な動作を実現するために、順序を考えたり、くりかえしたりする命令の組み合わせを考えることができる
	T 分解	動きはいくつかの小さな動きに分けられることに気づく	取り組みやすいように小さな動きに分解できる
	U 抽象化	コンピュータに命令するための記号があることに気づく	コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる
	V 組み合わせ	ものごとには順序のある場面があることに気づく	意図した活動を実現するための命令の組み合わせを考えることができる

STEP3 (めやす: 小学5・6年生)	STEP4 (めやす: 中学生)	
<p>社会の事象に関する課題を設定できる</p> <p>調査を設計し、情報を適切に収集・検証できる</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の表やグラフを用いて整理できる 情報が信頼できるものか確かめることができる 得た情報について論理的に考察し、新たな意味を見いだせる 原因と結果など情報と情報との関係を捉えられる <p>情報を取捨選択し、スライドや文書作成、表計算ソフトなどの複数のソフトで相手や目的に応じて表現できる</p> <p>インタビューなどで聞いたことや見学・観察などの体験から得られた情報と、統計資料などから読みとったことを関連づけて報告文を書いたり、ポスターセッションなどをすることができる</p> <p>情報活用を振り返り、効果を見いだせる</p>	<p>社会課題に関する課題を設定できる</p> <p>統計的な調査も含めて設計し、情報を効果的に収集・検証できる</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係を捉えられる 目的に応じて、複数の表やグラフを用いて情報を統計的に整理・分析することができる 目的に応じて、収集した資料を多面的・多角的に考察し、新たな意味を見いだせる <p>様々な相手や目的に応じて情報をまとめ、WEB等で適切且つ効果的に表現できる</p> <p>情報活用を振り返り、観点を決めて評価し、改善できる</p>	<p>実践事例</p>  <p>中1「社会」世界の諸地域</p>  <p>中2「理科」電流とその利用</p>  <p>中3「国語」古典に学ぶ「論語」</p>
<ul style="list-style-type: none"> ピリオドバトル等を通じて、本の面白さや魅力を知り、伝えようとする 読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づく <p>さまざまな資料、データから読みとった複数の情報をもとに、自分で考えを構築できる</p> <p>日本十進分類法(NDC)のしくみを理解して、学校図書館を利用できる</p> <ul style="list-style-type: none"> 年鑑、新聞、雑誌などの使い方がわかる 参考にした資料について、参考文献リスト等を作成することができる <p>目的に応じて、各種施設(公共図書館、博物館、資料館)の資料等を利用することができる</p>	<p>実践事例</p>  <p>小5「国語」理地問題について報告しよう</p>  <p>小6「総合的な学習の時間」職探訪のレポートを作ろう</p>  <p>小5「国語・総合的な学習の時間」図説を読みながらレポートを作ろう</p>  <p>小6「国語」防災ポスターを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 本やメディアを適切に選択し課題を解決しようとする 自分の考えを広げたり深めたりすることに、読書を生かそうとする 考えの根拠として、さまざまな資料、データから読みとった複数の情報を活用し、自分の意見を表現できる レファレンスサービスの活用方法について理解して、学校図書館を利用できる 参考図書などの使い方がわかる 目的意識や他者意識をもって工夫して情報を発信したり、フィードバックをもらって改善したりすることができる 目的に応じて必要な学校図書館メディアを複数選択し、比較検討することができる <p>自ら調べたいことや知りたいことを解決するために各種施設(公共図書館、博物館、資料館)を利用し、課題解決のために活用することができる</p>	<p>実践事例</p>  <p>中1「理科」いろいろな生物とその共通点</p>  <p>中2「総合的な学習の時間」SDGs</p>  <p>中2「家庭」幼児の生活と家族</p>  <p>中3「社会」世界の諸地域</p>
<p>キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる(16文字程度/1分間)</p> <p>目的に応じて様々なアプリケーションを選択し、操作できる</p> <p>AND、ORなどの論理演算子を用いた検索ができる</p> <p>クラウドを用いて、ファイルやフォルダの管理ができる</p>	<p>キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる(25文字程度/1分間)</p> <p>複数のアプリケーションを関連づけて操作できる</p> <p>目的に応じて適切に検索できる</p> <p>クラウドを用いて、規則性に従ったフォルダをつくらしたり、圧縮やパスワードによる暗号化などを用いた管理ができる</p>	<p>実践事例</p>  <p>小5「社会」これからの工業生産とわたしたち</p>  <p>小6「社会」世界のなかの日本とわたしたち</p>  <p>小6「算数」データを整理・分析しよう</p> <p>中1「理科」植物の分類</p>  <p>中2「数学」図形の調べ方</p>  <p>中3「国語」情報を関係づける</p>
<p>著作権等の情報に関する権利と重要性について理解できる</p> <p>セキュリティソフトやフィルタリングを適用させるなど、情報を守るための手段や方法を知り、使用できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ルールやマナーを守り、チャットやクラウドなどを適切に利用し、他人とやり取りができる 社会に広がっている情報・ニュース等が事実に基づいているか判断したり、正しい情報について調べたりすることができる <ul style="list-style-type: none"> 情報に関する自他の権利があることを踏まえ、適切に行動しようとする 情報や情報技術を、よりよい生活に生かそうとする <p>フローチャートなどにより表現できる</p> <p>意図した複雑な動作を実現するために、条件によって動きを変えたりする命令の組み合わせを考えることができる</p> <p>複雑な動きを、取り組みやすいように小さな動きに分解できる</p> <p>目的や意図に合わせて、必要な動きを見出し、コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる</p> <p>意図した活動を実現するために、複数の命令を組み合わせより効果的な組み合わせを考えることができる</p>	<p>実践事例</p>  <p>小6「総合的な学習の時間」言葉や行動について考えよう</p>  <p>小5「算数」体積</p>  <p>小5「理科」ぼくらの探究レポート</p> <p>発信した情報等について情報社会に及ぼす影響を理解できる</p> <p>セキュリティソフトやフィルタリングなど、情報セキュリティ確保のための対策を自ら確認し、実施できる</p> <ul style="list-style-type: none"> 生成AIの仕組み、利便性、リスク、留意点ができる より良い回答を引き出すための生成AIとの対話の方法がわかる 目的に応じてアプリやインターネット上のサービス等を選択して安全に利用できる <ul style="list-style-type: none"> 情報に関する個人の権利と重要性を踏まえ、適切に行動しようとする 社会は互いに法律やマナーを守ることで成り立っていることをふまえて、行動しようとしている 情報や情報技術を、持続可能な社会づくりに生かそうとする 	<p>実践事例</p>  <p>中3「国語」情報との付き合い方を考えよう</p>  <p>中3「技術・家庭」Scratchで課題を乗り越えよう</p>  <p>中3「技術・家庭」計測・制御のプログラムによる問題解決</p>
<p>意図した複雑な動作を実現するために、条件によって動きを変えたりする命令の組み合わせを考えることができる</p> <p>複雑な動きを、取り組みやすいように小さな動きに分解できる</p> <p>目的や意図に合わせて、必要な動きを見出し、コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる</p> <p>意図した活動を実現するために、複数の命令を組み合わせより効果的な組み合わせを考えることができる</p>	<p>実践事例</p>  <p>小5「算数」体積</p>  <p>小5「理科」ぼくらの探究レポート</p> <p>アクティビティ図などにより表現できる</p> <p>生活や社会の中からプログラムに関わる問題を見だして課題を設定し、プログラミング的思考等を発揮して解決策を構想したり、処理の流れを図などに表し思考等を通じて解決策を具体化できる</p> <p>計測・制御、双方向性のあるコンテンツの制作、ネットワークやデータを活用して処理するプログラミングを行うために、必要な動きに分解できる</p> <p>目的や意図に合わせて、必要な動きを見出し、課題解決に必要な機能をプログラミング言語等を用いて表現することができる</p> <p>安全・適切なプログラムとなるように、複数の命令を組み合わせたり、他者と協働して粘り強く、より効果的なプログラムとなるよう評価、改善及び修正を行うことができる</p>	<p>実践事例</p>  <p>中3「技術・家庭」Scratchで課題を乗り越えよう</p>  <p>中3「技術・家庭」計測・制御のプログラムによる問題解決</p>

大阪府情報活用能力ステップシート

大阪府により作成された、自立した学習者の育成を目指し、9年間で育むべき能力を体系化した指針です。

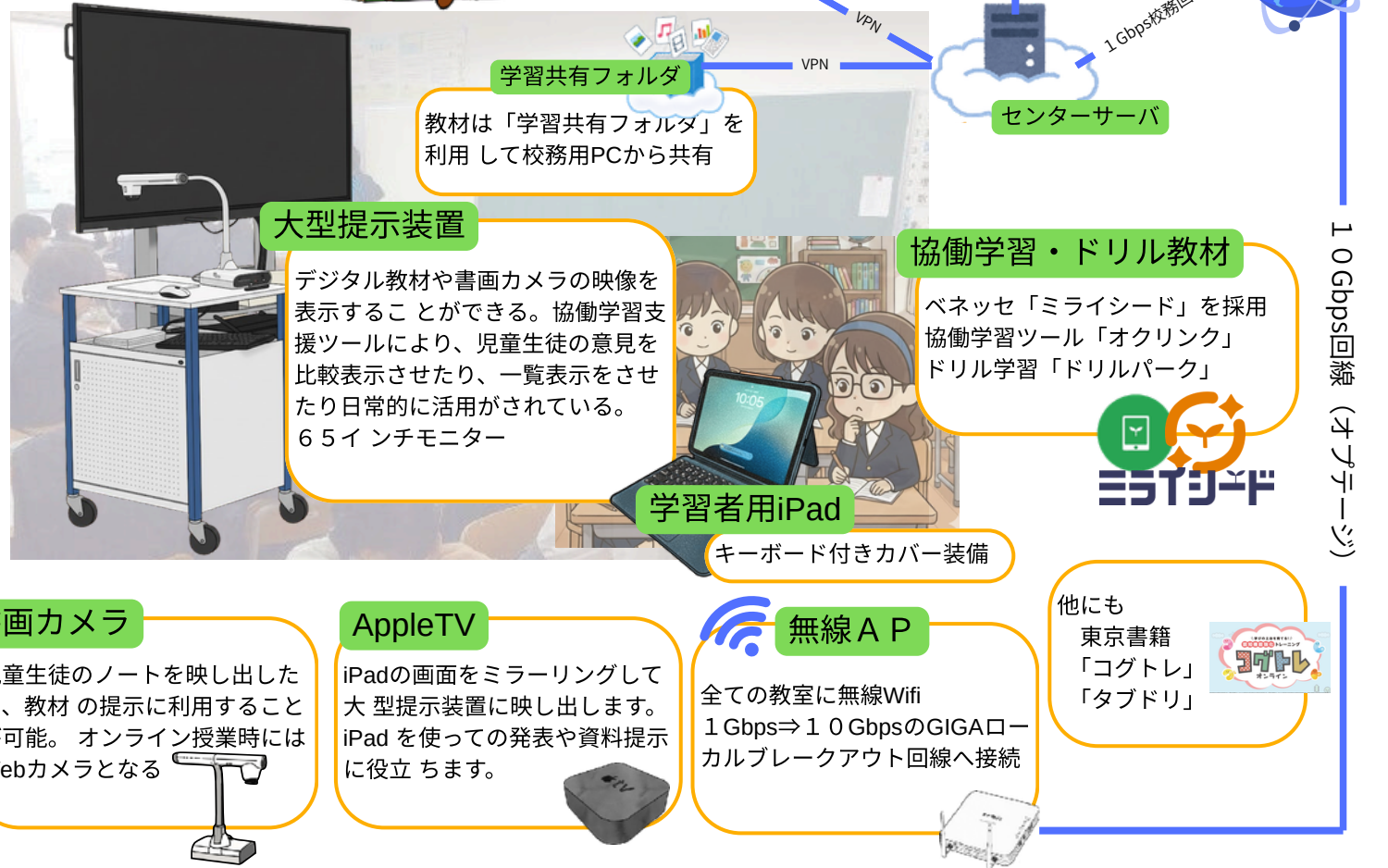


※大阪府HPよりダウンロードいただけます。



The image shows the front and back covers of a brochure titled "大阪府 情報活用能力ステップシート" (Osaka Prefecture Information Literacy Skills Step Sheet). The front cover (left) features the Osaka Prefecture logo, a cartoon character, a photo of students using laptops, and the title. The back cover (right) includes a photo of students in a classroom, a cartoon character with books, a photo of a student with a laptop, and a QR code with the URL <https://www.pref.osaka.lg.jp/sboc/hgakkai/grokakatsuyosa/sauryoki/index.html>. The publisher information is: 発行:大阪府教育庁 市町村教育室小中学校課 (令和6年3月).

守口市のICT環境



守口市ICT環境ロードマップ

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
教室環境	電子黒板・PC・書画カメラ・AppleTV 中学校PC教室 (Macbook) 小学校PC教室 (ArrowsTab) 学習用プリンター設置 (校内の置き場所フリーのプリンタ)						
児童生徒		学習用タブレット (GIGA1期) 協働学習・ドリルアプリ (ミライシード) 支援・通級アプリ (コグトレ)				学習用タブレット (GIGA2期)	
教職員	校務用PC (WindowsPC) 教職員グループウェアシステム・出勤管理 (内田洋行デジタル校務) 校務支援システム (スズキ校務) 通知表等帳票出力		保護者との連絡ツール (COCO)	指導者用タブレット (iPad)			
通信環境	教職員・児童生徒アカウント (A1) ※無料 集約型サーバ (共通ファイルサーバ) 無線アクセスポイント (すべての学習教室)			教職員・児童生徒アカウント (A3) ※有料アカウント			
人的配置	学校教育情報化コーディネータ (ICT支援員) 5名配置 (21校⇒4.2校に1人配置)		大阪府GIGA運営支援センター (訪問・コールセンター・モバイルルータ貸与)				

未来の教室へ。
さあ、一緒に歩きだしましょう。



守口市教育委員会